野球太郎式モックドラフト・結果

	中日	北海道日本ハム	東京ヤクルト	埼玉西武	読売	東北楽天
1巡目	◎② 常廣 羽也斗 投手・青山学院大	◎③ 細野 晴希 投手・東洋大	×② 常廣 羽也斗 投手・青山学院大	◎③ 佐々木 麟太郎 一塁手・花巻東高	×③ 佐々木 麟太郎 一塁手・花巻東高	×③ 佐々木 麟太郎 一塁手・花巻東高
外れ			西舘 勇陽 投手・中央大		古謝 樹 投手・桐蔭横浜大	上田 希由翔 三塁手・明治大
2巡目→	岩井 俊介 投手・名城大	下村 海翔 投手・青山学院大	村田 賢一 投手・明治大	木村 優人 投手・霞ヶ浦高	廣瀬 隆太 二塁手・慶應義塾大	尾崎 完太 投手・法政大
3巡目↓	杉山 遥希 投手・横浜高	佐倉 俠史朗 一塁手・九州国際大付高	草加 勝 投手・亜細亜大	森田 大翔 三塁手・履正社高	冨士 隼斗 投手・平成国際大	相羽 寛太 遊撃手・ヤマハ
4巡目→	小笠原 蒼 一塁手・京都翔英高	堀 柊那 捕手・報徳学園高	宮崎 一樹 外野手・山梨学院大	真野 凜風 投手・同志社大	河内 康介 投手・聖カタリナ学園高	鈴木 叶 捕手・常葉大菊川高
5巡目↓	津田 啓史 遊撃手・三菱重工East	百崎 蒼生 遊撃手・東海大熊本星翔高	藤田 悠太郎 捕手・福大大濠高	工藤 泰成 投手・東京国際大	中澤 恒貴 遊撃手・八戸学院光星高	谷脇 弘起 投手・立命館大
	選択終了	選択終了	選択終了	選択終了	選択終了	選択終了

まえると、そう簡単に「モックドラフト」と称するほどの予想にはならないかもしれない不安はある。それもエンターテイメントの1つとしてとらえ、最大限当てに行こう、と頭と情報とネットワークをフル活用し、「モックドラフト」に挑んだ。

このようなアメリカと日本の制度の違い、予想の精度を踏まえて、呼び名は「野球太郎式『モックドラフト』」としたい。

今回のルールや基準

今回の「モックドラフト」を行ったのは8月27日。プロ志望届の提出さえ始まっていない時期なので、取材陣が聞いている情報や、新聞コメントなどを踏まえて、プロ志望だと明確な選手のみを指名対象にしている。ただ、当初は進学の予定がプロ志望に、プロ志望から進学に切り替えたりする選手もいる。現実と齟齬が出てしまう点はご了承ください。

また、指名の順番も、ページ掲載順も8月27日段階の順位で決めている。ただ、以降のページでチーム成績は、9月12日時点、選手の個人成績は9月14日時点でのものを掲載している。それぞれの段階で順位が異なっていて、読みにくいだろうが、ご理解いただけると幸いです。

ちなみに、今年のドラフト会議はセ・リーグが先行しての指名となるため、当日6位だった中日から2巡目の指名がスタートする。指名数は全球団5人とし、育成ドラフトはなし。5人以上の指名は予想になるか疑問に感じ、また実際のドラフトでもスカウト個々の個性が出てくるところ。余白としてお楽しみください。

今年のモックドラフトも、「スカウト部長制」を採用した。セ・リーグは蔵建て男氏が、パ・リーグはARA氏が務め、主に各球団の指名プラン、指名予定選手を考えていただいた。戦略性を持って、指名を進めることができ、年を追うごとに仕上がりのいい指名になっているように感じる。尽力いただいた両スカウト部長に感謝申し上げます。

それでは、なぜ上記のようなモックドラフト結果となったか、1球団ずつ紐解いていこう。